

2025. 8. 28.

「帰国小学生英語保持講座」 言語学博士 服部 孝彦 教授 特別授業 2025. 9. 13.  
親子・友人と共に学び、楽しむ英語ゲーム 子供の英語力を伸ばすために

大妻中野中学校・高等学校では、今年で20年目を迎える「帰国小学生英語保持講座」を毎週土曜日に、無料で実施しています。この講座では、本校のアメリカ人専任教諭が、本校の英語教育の取り組みの知見を生かし、小学生の英語力の保持・向上を目的に、英語アクティビティやリーディングやディスカッション、英語プレゼンテーションなどを行っています。

今回、この講座の中で、本校教育顧問、言語学博士・大妻女子大学名誉教授、東京大学大学院講師の服部孝彦先生による特別授業を行います。服部先生は、海外子女教育振興財団の英語保持教室でも長年、ご活躍されており、帰国生の英語保持、伸長のための英語指導の第一人者でいらっしゃいます。今回、以下の通り、この特別講座を実施します。この講座受講生とその保護者とともに受講生でない方も参加できます。参加希望の方は、本校グローバル・センターに保護者・お子さんのお名前、現在の在籍小学校、学年、メールアドレスを記し、お申込み下さい。この授業は対面授業ですが、オンライン(ZOOM)参加も可能です。

授業実施日時: 2025年9月13日(土), 11:50-12:40 場所: 大妻中野中学校・高等学校 英語室  
申込先: [global@otsumanakano.ac.jp](mailto:global@otsumanakano.ac.jp) 締切: 9月10日 18:00 (早めの申込をどうぞ)

— 講師の服部先生による講座紹介 —

帰国生における第二言語喪失の現象の中で、最も顕著に観察されるのは「語彙の忘却」です。語彙の喪失は、言語運用における基盤的な力の衰退を意味するため、その防止は極めて重要な課題です。この授業では、語彙力の維持と強化を目指し、実践的かつ効果的な方法を学ぶ機会を提供いたします。第二言語喪失研究の知見によれば、語彙忘却は一般に受容能力(読む・聞く)よりも産出能力(話す・書く)の側面に先行して生じることが明らかになっています。したがって、帰国生が比較的保持している受容語彙を積極的に産出語彙へと結びつける橋渡しの訓練が不可欠となります。

この授業では、その具体的な方法の一つとして、英語圏のESL(English as a Second Language)教育現場で広く活用されている「タブー(Taboo)」という英語ゲームを紹介いたします。このゲームは、ある単語を説明する際に「禁止語(タブー・ワード)」を用いずに伝える必要があるため、発想の柔軟さや語彙の多面的な理解が求められます。表面的には単純に見えながらも、実際に挑戦してみると高度な語彙力と創造的思考を必要とする意外に難度の高い活動です。しかし、その難しさゆえに極めて楽しく、また自然に言語運用能力を高められることから、英語教育現場で長く親しまれてきました。遊びの中で学習を促す典型的な教育的ゲームの一つといえます。



本ゲームを通じて学習者は、既に保持している受容語彙を「どう表現するか」に悩み、工夫しながら試行錯誤を重ねることになります。この過程こそが、受容語彙を産出語彙へと転換させる貴重な実践であり、帰国生の語彙保持に大きな効果をもたらします。ぜひ親子で本講義にご参加いただき、英語ゲームを楽しみながら学びの意義を体感していただければ幸いです。

— 講師紹介 — 大妻中野中学校・高等学校 教育顧問、大妻女子大学名誉教授、東京大学大学院理学系研究科講師。  
服部孝彦(はっとり・たかひこ)先生

初等・中等・高等教育を日米両国で受けた元帰国子女。言語学博士(Ph.D.)。早稲田大学講師、米国ケンタッキー州立ムレー大学(MSU)大学院客員教授、大妻女子大学大学院教授等を経て現職。公益財団法人海外子女教育振興財団外国語保持教室アドバイザー、国連英検統括監修官兼外国人面接官指導研修スーパーバイザー、JSAF-IELTS アカデミック・スーパーバイザー、元 NHK 英語教育番組講師。文部科学省 SGH や WWL 等の、国のグローバル化のためのリーディング・プロジェクトの中心メンバーとして活躍している。著書に文部科学省検定中学および高校英語教科書他、著書 220 冊、学術誌発表論文 167 編、学会発表論文 223 編、教育誌執筆記事 505 編。今までの日本及び海外での英語教育、グローバル教育、帰国子女教育関係の講演回数は合計 1,360 回を超える。日本に本拠地を置く現在でも、海外での講義・講演、国際学会での研究発表を精力的にこなす。

### 2021年度本校卒業 早稲田大学 国際教養学部 4年 まりこ さん

両親から大妻中野のホームページに帰国小学生英語講座があることを聞き、当時、小学6年生の私は、すぐに始めたい、と自分から申し出ました。アメリカから帰国後、公立の小学校にいた私は英語を話す機会が無く、英語に飢えていたのだと思います。緊張しながらクラスに入ると、先生がとても優しく、フランクに話しかけてくださり、すぐにクラスに馴染むことができました。このクラスでは皆が意見を持ち、お互いを認め合う環境が整っていたのでとても居心地の良い場所に感じました。この講座を受けたことで帰国後の英語能力維持に、とても効果があったと感じています。クラスの友人達とそしてユニークな先生と、授業だけでなくバスケットボールやゲームをしたり、またハロウィンやバレンタインなどの行事も楽しんだりと心に残る思い出はたくさんあります。



### 2022年度本校卒業 国際基督教大学 ICU 教養学部 3年 かれん さん

私は小学校5年生の2学期に日本へ帰国し、「帰国小学生英語講座」の存在を知りました。この講座は毎週土曜日に開催され、実際に大妻中野で英語の授業を担当されているネイティブの先生が授業を行って下さいました。毎週通うことで、学校や生徒さんの雰囲気を知ることが出来、いつも学校の生徒さんが小学生の私にも笑顔で挨拶してくれたことが印象的でした。入学する前から学校の雰囲気を間近で知れるというのは、この講座を受講する一番の魅力だと思います。私がこの講座で一番印象に残った授業は、グループで行ったプレゼンテーションです。初対面の子とグループになり、図書室で本を借りてリサーチを行い、フィルムの仕組みについて発表しました。初対面の人と共に協力し、発表することで、主体性や協調性、発信力など、新たなスキルを磨くことが出来たと思います。

### 2022年度本校卒業 東北大学 農学部 3年 あい さん

私は3才から6才までオーストラリアで過ごし、大妻中野にはグローバル入試で入学しました。英語を忘れないようにと、両親の勧めで、小学4年生からこの帰国小学生英語講座に通い始めました。帰国してすぐのハイレベルな友達に気後れすることもありましたが、ネイティブの先生や周りの友達がフレンドリーに接してくれたので、だんだんと積極的に英語を話せるようになりました。また、英語を使ったさまざまなアクティビティーは英語に親しむ良い機会でした。特に、みんなでドッチボールをしたことやパーティーをしたことをよく覚えています。楽しみながら英語を使うことで、より自然な英語が身につくようになったと思います。

### 2023年度本校卒業 上智大学 理工学部 2年 わかな さん

小学6年生の春に海外から帰国した私は、担当してくださっているネイティブの先生がとてもフレンドリーで、毎週楽しく通っていました。当時、ネイティブの先生から教えていただけたのがとても新鮮で、海外のインターナショナルスクールで学んでいるような感覚でした。この講座では主に、自分のレベルにあった海外の教科書を使用して、それぞれのグループに分かれて、ディスカッション。いろんな人の意見が聞けて良い刺激になったのを覚えています。みんなが帰国子女なので、気軽に話せますし、本当にインターナショナルスクールで勉強しているようでした。アクティブにプレゼンテーションをする機会やパーティーなどもあって、とても楽しく通っていました。

### 2024年度本校卒業 早稲田大学 国際教養学部 1年 ゆり さん

私は海外に住んだ経験はありませんが、インターナショナルプリスクールに通うなど幼少期から英語で話せる環境を大切にしてきました。英語力を伸ばすことができる中学を探していた際、母が大妻中野中学校の「帰国小学生英語講座」を提案してくれました。帰国子女ではない私が参加できるか不安でしたが、小学5年生から通うことができました。授業では、自分のレベルに合ったテキストブックを使用し、グループでディスカッションしながら問題を解いていきました。また、初めての英語でのプレゼンテーションも経験し、自信を持って英語で話す新たな機会となりました。特に、自分の意見を英語で表現する力や、相手の意見を理解する力が大きく向上したと感じています。